

# 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 旭区

学 校 名 清水小学校

学校長名 北埜 恵一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・清水小学校では、第6学年 67名

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科・算数科とも全国・大阪市の平均正答率を下回る結果となった。全国平均と比べると、国語科は3.7ポイント、算数科は4.4ポイント低い。また、大阪市平均と比べると、国語科は2ポイント、算数科は3ポイント低い。しかし、昨年度より国語科・算数科ともに、全国・大阪市平均との差が縮まっており、基礎・基本の学力が身に付きつつある。

平均無解答率は、算数科は全国・大阪市の平均より高かったが、国語科は全国平均より低い結果となった。

## 分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

## 〔国語〕

「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」については、全国・大阪市の平均正答率を3～5ポイント程度上回っている。また、「書くこと」についても大阪市平均を上回っており、これまでの学習が定着しつつあると言える。授業や自主学習などで自分の考えを書いたり、ICT機器を活用しながら、図やグラフから読み取ったことを表現したりする機会を設けてきた成果と考えられる。また、「読むこと」も大阪市平均を上回り、全国平均とほとんど差がないことから、読解力向上を目指した日々の授業の工夫の成果が見られる。

しかし、「話すこと・聞くこと」については、全国・大阪市平均を12ポイント以上下回っている。相手に自分の思いが伝わるように話したり、話の中心や概要を捉えながら聞いたりする力に課題があることが分かった。

## 〔算数〕

「数と計算」、「図形」については、全国・大阪市平均に近づきつつあり、低学年からの積み重ねと合わせて、習熟度別少人数授業で一人一人に合わせた丁寧な指導や、ICT機器を活用した指導を継続してきた成果が見られる。

しかし、「変化と関係」、「データの活用」については、全国・大阪市平均との差がある。数量の変化やデータを読み取ったり、理解したりする力の不足が見られる。無解答率も全国・大阪市の平均を大きく上回っており、粘り強く問題解決に取り組むことが難しい児童がいることが分かった。

質問調査より

国語科、算数科ともに「好きですか」「よく分かりますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は、全国・大阪市平均を上回るか同程度という結果であった。学力向上支援チームなどと連携しながら、教員一人一人が「わかりやすい授業」を目指して、工夫・改善を続けてきた結果である。しかし、学力調査の正答率に反映されておらず、授業その場では理解できるものの、学習が身に付くまで繰り返し復習などをすることができなかつたり、自分一人になると問題を解けなかつたりする児童が多いと考えられる。

また、授業時間以外に、家庭学習に取り組んだり、ICTを活用して学習したりする習慣が身に付いていない児童も多い。今後も基礎・基本の学力を定着させるための手立てを工夫したり、視覚的に理解を促すためにICT機器や一人一台端末を活用したりして、「わかる」授業をめざしていく。また、自主学習ノートを活用して、学習に対する興味・関心を高めたり、学習習慣が身に付くようにしたりしていく。

「英語の勉強は好きですか」「英語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は、全国・大阪市平均を5～13ポイント上回っている。外国語助手(C-NET)を活用した指導や、国際クラブや多文化週間など、様々な国々の文化に親しみ、多様性を認める人権教育の推進の成果であると考えられる。

生活習慣に関わる質問では、「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目に対して、肯定的に回答した児童の割合は全国・大阪市の平均を下回っている。また、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」の質問では、4時間以上と回答した児童が30%程度、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」の質問では、2時間以上と回答した児童が40%を越えており、ゲームをしたり動画を見たりして寝る時間が遅くなって朝起きるのが遅くなったり、朝食を摂れなかったりする児童が一定数いることがうかがえる。

## 今後の取組(アクションプラン)

今年度は「子どもたちが主体的に楽しく学べる授業づくり ～ICTを活用した学習活動を通して～」を主題として、教科にこだわらず研究活動を進めていく。ICT機器や一人一台端末を活用し、児童一人一人に合った学びやICTの効果的な活用方法を研究していく。研究活動を通して、児童が「わかる」「できる」授業づくりを工夫していく。外部講師の招聘や体験的な学習も取り入れ、児童が学ぶ楽しさや喜びを感じ、将来にわたって学ぶ意欲をもてるような学びの場をつくっていききたい。

また、朝の短時間学習も継続的に行い、英語に慣れ親しんだり、デジタルドリルを活用して漢字や計算などを繰り返し練習することで基礎・基本の学力の定着を図っていく。

さらに家庭とも連携し、児童が情報モラルを身に付け、ルールを守って携帯電話やスマートフォンを使用したり、「早寝・早起き・朝ごはん」といった規則正しい生活習慣を意識して家庭生活を送ったりできるようにしていく。